医会だより

岩手県被災地視察報告

会長　高野　繁

⑴　はじめに

平成23年3月11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震は，国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し，それにともなって発生した津波は，特に岩手県・宮城県・福島県・茨城県の4県に大きな被害をもたらしました。3月31日（木），岩手県の被害状況の一部を視察する機会を得ましたので，その内容を報告致します。

⑵　岩手県への往路

東北新幹線が運行されておらず，また飛行機のチケットをとることも困難であったため，今回は通行規制が全面解除となった東北自動車道を利用する夜間高速バスに乗って，岩手県盛岡市へむかいました。前日の3月30日（水）の23時45分に東京駅を出発し，翌日31日（木）の6時30分に盛岡市に到着致しました。

⑶　被災地の視察

岩手県眼科災害対策本部長でもあり，また日本眼科医会の常任理事である髙橋和博先生の案内で，また日本眼科医療機器協会会長瀧本次友氏・事務局今井五介氏の同行も得て，岩手県大船渡市・陸前高田市の被災地（写真①）を視察致しました。テレビや新聞等では見ておりましたが，生でその光景を見ると言葉では言い表すことのできない思いになりました。悲惨という言葉をはるかに超え，まるで地獄の中のものをみているというような思いでした。

⑷　眼科巡回診療

陸前高田市の避難所における眼科巡回診療に同行し，診療後のミーティングに参加致しました（写真②）。この眼科巡回診療の中心的役割を果たしているのは，岩手医科大学眼科学教室の黒坂大次郎教授グループです。この日は黒坂教授が直々に巡回され，医局員2人と計3人で，いくつかの避難所を回っておりました。CLや点眼薬などの眼科関連物資はほぼ足りていますが，患者を診療するための手持ち医療機器が不足しているとの意見をいただきました。もちろん岩手県眼科医会のサポートもあるようですが，ウィークデーの巡回診療は大学に依存しているところが多いように感じました。

⑸　おわりに

たった1日でまた限られた場所だけでしたが，被災地を視察することができました。今後しばらく続くだろう眼科巡回診療に対する，経済的ならびに人的支援の必要性を強く感じました。また，その時に利用する眼科医療機器の確保も考えなくてはいけない課題であると思いました。今後の支援において，本会が果たす役割を考える上で，大きな参考となりました。

なお帰路は，何とか4月1日（金）の秋田空港から羽田までのチケットが1枚だけ取れ，7時間のバスを利用することなく，東京へもどれましたことを申し添え，今回の岩手県被災地視察報告とさせていただきます。

写真①　陸前高田市の被災地

写真②　陸前高田市の避難所
（右側は黒坂大次郎教授）